

## 石巻南浜津波復興祈念公園の基本理念

この地に整備される復興祈念公園は、宮城県、さらには被災地全体のかねめとなる復興祈念公園として、この地のみならず東日本大震災でお亡くなりになられたすべての生命(いのち)に対する追悼の場となるとともに、東日本大震災の記憶と教訓を後世に伝える拠点となり、また、かつて市街地であった場所に公園の整備を通じて人々が係わり、人と人との絆、つながりを築いていくことにより、東日本大震災からの復興の象徴となるものです。

このような認識のもと、石巻南浜津波復興祈念公園の基本理念が、次のとおり定められました。

東日本大震災により犠牲となったすべての生命(いのち)への追悼の思いとともに、

- ・まちと震災の記録をつたえ
- ・生命(いのち)のいとなみの杜をつくり
- ・人の絆(きずな)をつむぐ

石巻市南浜地区復興祈念公園(仮称)  
基本計画(平成27年8月)より引用

## 基本デザインコンセプト

～土地の履歴、街の記憶、追悼と伝承の祈念公園の場所性を重ねる～

基本理念の実現に向け、公園の空間構成として、南浜地区における集落の成り立ちの歴史や風土を示すかつての自然環境である「浜」と、震災前に蓄積された半世紀の想いや記憶を示す「街」、さらには東日本大震災でお亡くなりになられた方を追悼し、被災の記憶と教訓を次世代へと伝承し、復興の意志を伝え続ける「祈念公園」としての機能をそれぞれ尊重することが重要と考えました。

南浜地区の市街化以前の「土地の履歴」、震災前の「街の記憶」、震災後の「追悼と伝承の祈念公園」という3つの場所性を重ねていくことを基本デザインコンセプトとしています。



浜(土地の履歴)が意味するもの

かつては聖人堀より南側は湿地や松原が広がる場所でした。のちに開墾されると桑畑、果樹園、水田となり、その後宅地開発されました。

街の記憶が意味するもの

街の暮らしの記憶。そして街が失われたことを震災の教訓として残すため、震災前の街の骨格的な街路を公園の幹線道路として残します。

祈念公園が意味するもの

東日本大震災でお亡くなりになられた方の追悼の場、教訓の伝承の場、復興への強い意志を発信する場としての祈念公園を整備します。

## 多様な主体の参画・協働

東日本大震災の復旧では、全国から集まったボランティアが携わるなど、個人や組織による「絆」により様々な活動が展開されました。

この公園でも、市民、NPO、企業等の多様な主体により、追悼、伝承、杜づくりに関する市民活動が行われています。

行政と市民団体が協働・連携し、園内での活動が円滑に行われるよう「参加型運営協議会」が結成され、市民活動・協働の取り組みを実践しています。



東日本大震災追悼「3.11のつどい」

## 利用案内

### 所在地

〒986-0835 宮城県石巻市南浜町2丁目1-56



- 自動車をご利用の場合  
三陸縦貫自動車道(E45)「石巻港IC」より約15分、  
「石巻河南IC」より約15分
- タクシーをご利用の場合  
JR石巻駅前より「門脇口」まで約10分
- バスをご利用の場合  
「石巻駅前バス乗り場<1番>」より  
ミヤコーバス「山下門脇線」乗車、「門脇四丁目バス停」下車約12分
- 自転車(レンタサイクル)をご利用の場合  
JR石巻駅前より「門脇口」まで約15分

### 開園時間

石巻南浜津波復興祈念公園

9:00～18:00(4月～9月)  
9:00～17:00(10月～3月)

みやぎ東日本大震災津波伝承館

9:00～17:00 ※入館最終時間16:30

### 駐車場・駐輪場

門脇駐車場	普通車/229台 大型車/9台	身障者等優先/5台 自転車/10台
聖人堀駐車場	普通車/66台 大型車/3台	身障者等優先/2台 自転車/10台
雲雀野駐車場	普通車/36台	身障者等優先/2台 自転車/16台

### 休園日

年中無休

※みやぎ東日本大震災津波伝承館は月曜日(祝日の場合は翌日、GW期間は除く)、年末年始(12/29-1/4)、毎月11日は曜日・祝日限らず閉館。

### トイレ

- みやぎ東日本大震災津波伝承館
- 門脇駐車場
- 聖人堀駐車場
- 四丁目北広場
- 雲雀野駐車場
- 一丁目広場

### AED

- みやぎ東日本大震災津波伝承館

### お問い合わせ先

石巻南浜津波復興祈念公園 公園窓口  
TEL:0225-98-7401 FAX:0225-98-7485  
https://www.ishinomakiminamihama-park.jp/

みやぎ東日本大震災津波伝承館 展示窓口  
TEL:0225-98-8081 FAX:0225-98-8082

### 発行

国土交通省 東北地方整備局 東北国営公園事務所  
〒989-1505 宮城県柴田郡川崎町大字小野字二本松53-9 TEL.0224-84-6211 FAX.0224-84-6214  
https://www.thr.mlit.go.jp/m-park/

## 石巻南浜津波復興祈念公園

ISHINOMAKI MINAMIHAMA TSUNAMI MEMORIAL PARK



## 石巻南浜津波復興祈念公園の経緯

平成23年(2011年)3月11日14時46分に発生した東日本大震災は、最大震度7の強い揺れに加え、その後に発生した津波により、広域にわたり甚大な被害をもたらした未曾有の大災害でした。

宮城県石巻市は、約4千人が亡くなった国内最大の被災市町村で、その中でも旧北上川河口部に位置する南浜地区(南浜町、門脇町及び雲雀野町)は津波の襲来とその後に発生した火災の延焼により500人以上の方々がお亡くなりになりました。

特に被災の大きかった南浜地区は地震、津波、火災及び地盤沈下の被害を複合的に受けており、東日本大震災の平野部の被災を代表する場所となっています。



南浜地区(門脇町)に広がる火災の様子  
(2011.3.11 撮影 出展:石巻百景)



津波襲来後の南浜地区  
(2011.4.24 撮影 出所:東日本大震災アーカイブ宮城(石巻市)  
※提供者:石巻市社会福祉協議会)

震災後、南浜地区の大部分が災害危険区域に指定され、防災集団移転促進事業が進められました。そして跡地の約38.8haに震災復興のシンボルとなる公園を、宮城県・石巻市の都市公園「石巻南浜津波復興祈念公園」として整備することとしました。

また、国も東日本大震災によりお亡くなりになられた方を追悼するとともに、震災の記憶と教訓を後世に伝承し、日本の再生に向けた復興への強い意志を国内外に向けて明確に示すことを目的とした国営追悼・祈念施設を設置することを決定し、この公園の一部を整備することとしました。

そして、この公園の計画策定にあたっては、国、宮城県、石巻市が連携し、市民や有識者など多くの方々に参加いただきながら、公園計画を策定しました。



石巻湾から見た現在の南浜地区の様子(2023年7月撮影)

### 公園施設案内

**01 追悼の広場**  
多くの方々がついで、震災によりお亡くなりになられた方を追悼する場で、全方位に祈ることができるよう円形の広場となっています。



**02 祈りの場**  
土地の歴史を象徴する「善海田池」、「中町通り」をはじめとする街の記憶、追悼と伝承の場としての「祈念公園」が重なる場です。  
西から東にかけた半円の献花台があり、将来雲雀野松原の樹木が成長すると、緑に囲まれた善海田池を背景とした空間となります。



**04 市民活動拠点**  
これまで公園計画地内では「がんばろう!石巻」看板や「南浜つなぐ館」等における追悼・伝承活動や杜づくり活動が行われてきました。多様な主体が管理運営をより安定的に活動が行えるよう参画・協働の取り組みを進めています。



**05 しょうにんぼり 聖人堀**  
聖人堀は江戸時代からその存在が確認でき、古くからこの地の人の営みを支える水路でした。一時期水路に蓋をした緑道として人々や自転車の往來に使われましたが公園整備にあたり、かつての街の記憶を伝える施設として、そのままの水路の姿として再生しています。

**06 一丁目の丘**  
公園全体や海・川を望める場(築山 標高10m)です。

**03 みやぎ東日本大震災津波伝承館**  
「かけがえない命を守るために、未来へと記憶を届ける」をコンセプトに展示施設を整備し、いざという事象に備えるための行動を学べます。



**07 祈念の杜**  
かつての中町通りや瀬仏線が交わる場所の周辺に、碑像を巡ることができるような空間としています。

**08 ぜんかいだいけ 善海田池**  
市街化が進行するまでは、この地には湿地が広がっていました。高度経済成長期に市街化が進みましたが、震災による地盤沈下で市街化以前の湿地が表出しました。  
善海田池は土地の歴史を伝えるとともに、かつての湿地を想起させる空間となっています。

**09 池内の島**  
善海田池には3つの島があります。これは善海田池を整備するにあたり、街の記憶を残すため、かつての街路であった3つの交差点形状を残したものです。



### 石巻南浜津波復興祈念公園 案内図



### 南浜地区の変遷



江戸時代まで、聖人堀より海側は洞と砂浜が広がる地でした。のちに開墾されると桑畑・果樹園・水田となり、さらに住宅地への転換が始まりました。  
写真出典:国土地理院ウェブサイト



高度経済成長期、石巻南浜町は住宅地として開発が進み、1977年には区画整理事業が完了し、住宅街が形成されました。  
写真出典:国土地理院ウェブサイト



震災翌日の3月12日に撮影。南浜地区は、津波の襲来と火災の延焼により、石巻市の中でも特に被災が大きい地区でした。  
写真出典:国土地理院ウェブサイト

### 公園でみる東日本大震災

みやぎ東日本大震災津波伝承館の一番高い北側の屋根の高さは、この地を襲った津波が停滞した時の高さ6.9mです。

建物の高さ:津波とおなじ高さ



### 公園施設案内

**10 初代「がんばろう!石巻」看板跡**  
初代「がんばろう!石巻」看板は、多くの人を勇気づけました。道路整備にともない看板は市民活動拠点に移設されましたが、「住宅店舗の基礎と「復興するぞ!」と書かれた路面ペイントが震災遺構として残っています。



**11 門脇保育所跡**  
津波により被災した門脇保育所の跡地です。建物の基礎と幼児用プールが震災遺構として残っています。



**12 南浜町会館跡**  
津波により被災した南浜町会館の跡地です。震災前は南浜町2丁目及び3丁目にお住まいの方が利用する集会所でした。現在は建物の基礎が震災遺構として残っています。

**13 洗濯湿地**  
津波がコンクリート造の建物にあたった影響で地面が洗濯され、その場所が湿地化したと考えられています。津波の脅威を物語る震災遺構として保存しています。

**14 中町通り**  
かつての街の主要道路である中町通りの街路形態を、公園の東西を結ぶ主要園路として保存しています。

**20 石巻市震災遺構 門脇小学校**  
津波被害の痕跡に加え、東北地方の多くの被災地で発生した津波火災の痕跡を唯一残した施設です。

**15 瀬仏線**  
かつての街の主要道路である瀬仏線の街路形態を、公園の南北を結ぶ主要園路として保存しています。

**16 ひばりのまっぼら 雲雀野松原**  
この地の市街化前には海岸線に沿って松林が形成されていました。その後、松林は市街化により住宅地となりましたが、かつて存在した松林を、市民参加による植樹等で復元しています。

**17 一丁目広場**  
バックヤードとして作業棟を有し、アスファルト舗装の広場を臨時駐車場として活用できるなど、多様な用途で利用できる空間です。

**18 四丁目北広場、四丁目南広場、雲雀野広場等**  
広大な芝生広場、クレイ広場、遊具広場、アスファルトで舗装された広場など、目的に応じて使い分けできる活動空間です。スポーツ、レクリエーション、家族の憩いなど多様な用途でご利用いただけます。

**19 石巻市慰霊碑**  
石巻市内でお亡くなりになられた方々を追悼するために建立された慰霊碑で、お亡くなりになられた方々の御芳名が記されています。



### 公園周辺施設

**21 日和山公園**  
石巻市内を一望できる丘陵地にある公園です。東日本大震災時には、多くの市民がこの公園に避難しました。